

図書館だより

第30号 令和4年3月発行



大島商船高等専門学校図書館
山口県大島郡周防大島町大字小松1091番地1

目 次

巻頭言

図書館ってなんだろう	図書館長	浅川 貴史	1
------------	------	-------	---

第 19 回読書感想文コンクール優秀作品発表

最優秀賞

「何者」を読んで	情報工学科 1 年	河村 菜々	2
----------	-----------	-------	---

優 秀 賞

「西の魔女が死んだ」を読んで	商船学科 2 年	田中 智也	3
----------------	----------	-------	---

佳 作

魔法を使わない魔女	情報工学科 3 年	野原 朱莉	4
挑戦、そして努力	電子機械工学科 2 年	佐上 眞也	5
人生と天然な色	情報工学科 2 年	牧平 大和	6
魔女の条件	商船学科 1 年	青木 愛莉	7

第 1 回読書ラリー優秀者発表 8

推薦図書

こころ	一般科目	牛見 真博	9
エネルギー問題入門	電子機械工学科	笹岡 秀紀	10
：カリフォルニア大学バークレー校特別講義			

ブックハンティングに参加して 11

図書館利用状況 14

※表紙写真：第 19 回読書感想文コンクール表彰式（校長室にて）

巻頭言

図書館ってなんだろう

図書館長・図書館司書 浅川 貴史

図書館長の浅川です。昨年度は寮務主事室担当だったので、「あれ？」とか「だれ？」とか思っている学生も多いでしょうね。電子機械工学科の声の大きな浅川です。まあ、私の印象はひとまず置いて、みなさんの図書館のイメージはどんなものでしょう。これまでにみなさんが行ったことのある図書館はどのような感じでしたか。

ここで、ちょっと図書館の種類について説明します。図書館には日本で出版されるすべての図書資料を収集している国立国会図書館、各都道府県の郷土資料や行政資料など重要性の高い資料収集を主体とする県立図書館、そして一般的な社会人にとって最も馴染みのある公立図書館があります。公立図書館では、小説などの文学書、絵本などの児童書を読むために利用する方が多いので、みなさんも一度は訪れたことがあるのではないのでしょうか。しかし、意外に学習書や参考書が少ないと思いませんか。さらに大学生や高専生が必要とする専門書も思ったほどありません。では、そのための図書館はないのでしょうか。そう、そう、学校の図書館を忘れてはいけませんね。学校図書館も2つに分かれています。高等学校までの学校図書館は児童・生徒の教育のための図書館となっています。文学書もその一環として所蔵しています。もうひとつの図書館は、大学、高専の図書館になります。こちらは学生の教育だけでなく、学生・教員の研究用の専門書を中心に所蔵しています。中学校の図書館や公立図書館をイメージして高専の図書館に来ると、他の図書館よりも所蔵図書の種類が少ないため、本が少ないなあと感じることもあるでしょう。実際には、本校には約8万冊の図書があります。一方、高専の高学年以上で、卒研や専攻科の研究が目的となると、各学科の先生方が推薦された専門書の充実ぶりを感じ取ってもらえると思います。

でも、やはり図書館といえば静かにゆっくりと自分を見つめ直す「場」ですよ。 「ここを育む」本との出会いは、安らぎをもたらしてくれるだけでなく、明日への希望にもつながります。ある人は小説であったり、ある人は偉人の自伝であったり、自分の興味のある専門分野の本もいいですね。そこで、私のお薦めですが、それは絵本です。絵本に込められた想い、幼い頃に絵本を読んだ・読んでもらったときの想い、海外の絵本では異文化への理解も深まるかもしれません。本校の図書館では、本年度から「いのちを育む」をテーマに絵本を図書館や保健室の入り口付近に用意しました。

「いまさら絵本？」なんて思うかもしれません。先端技術者を目指す学生に必要なのではないかと考えるかもしれません。でも、しっかりと周りを見てください。学校や社会のいろいろな問題、SDGsやLGBTQの取り組み、どんな素晴らしい技術も「いのち」を大切にすることから始まります。さあ、恥ずかしがらずに絵本を手にとって、幼い頃の自由な想いを絵本の中から見つけてみましょう。きっと優しい気持ちになれますよ。

最優秀賞

「何者」を読んで

『何者』 朝井 リョウ 著 新潮文庫

情報工学科 1 年 河村 菜々

私たちは何者なのだろう。そんなことを考えながら読み進めていくうちに、後半息が詰まるような重苦しさと衝撃を覚えた。タイトルにもある「何者」。その意味がわかった時、私は改めてこの小説に引き込まれた。

朝井リョウ著「何者」は、主人公拓人を中心とした、光太郎、瑞月、理香、隆良の五人が就活対策として理香の部屋にあつまようになり、それぞれの思いや悩みを SNS に吐き出しながら就活に励んでいる様子が描かれている。主人公拓人の目線で描かれているのだが、それぞれの人物の会話、拓人の思考、SNS でのつぶやきという 3 種類の文章で構成されていて、とてもおもしろい。

私がこの本を手にして初めに感じたのは、作者の表現力の高さである。文字だけでこうも事細かに心情が伝わるのかと驚いた。感情をそのまま文として表すのではなく、登場人物の動作と結びつけるのがとても上手なのだ。直接書かれていない分、読み手の想像力で補うことになる。そのため、その人物への共感性が高まり、まるで自分がその場にいるような臨場感を感じることができるのである。また、こう感じるのにはもう一つ理由がある。登場人物の設定だ。この話に出てくる人は皆、どこか現実味を帯びている。これほど個性的なキャラが集まっているのだから、もう少し小説らしく複雑に掘り下げることもできただろう。だが、朝井リョウはそれをしなかった。まるで自分の個性は本当は薄っぺらいのだと突きつけられたようだ。人間の醜い部分やかつこ悪さをとても自然に滲み出させていると感じた。

この作品を読んで一番印象に残ったのはやはり最後の理香と拓人が対峙する場面である。この場面で私は知らず知らずのうちに拓人に共感しながら読み進めていたことに気がついた。それと同時に、拓人と同じように理香たちを見ていた自分を恥じた。本当にカッコ悪いのは観察者だった。拓人に対する言葉は私自身に向けられているようで、理香の言葉ひとつひとつが私の心に深く重くのしかかった。肩書きにこだわって滑稽に見えた理香だが、実は一番自分自身を理解していたと思う。周りからどう思われているか、今の自分はどうすべきか。

「ダサくてカッコ悪い自分の姿で、これでもかってくらいに悪あがきするしかないんだよ、もう。」

今となっては私も拓人の気持ちがよくわかる。拓人は羨ましかったのかもしれない。他人を馬鹿にしながらも彼らのような生き方さえもできず、その葛藤を SNS で発信することによって自分を慰めていたのだろう。思い返せば私も拓人と同じことをしていた時もあった。自分の努力が足りないのに他人を認めず、あら探しばかりをして、自分の正当性を主張していた。自分の弱さや甘えを他人のせいにしていた。今もお完全にその思いがなくなったとはいえないが、まずは自分を見つめ直すことから始めていきたい。場面が切り替わり、拓人の面接のシーンとなる。最後の一文を読み終えたとき、私は安堵感を感じた。面接で拓人は、自分の気持ちを伝えることができた。140 字以内のつぶやきではなく、自分の言葉で。客観的に見て、他人を認め、前に進もうとしている。崩れてしまった友情も取り戻そうとしている。もし理香に気づかされることがなければ、今の拓人はここにはいなかっただろう。

「だけど、落ちてても、たぶん、大丈夫だ。不思議と、そう思えた。」

カッコ悪くてもいい。大切なのはそんな自分を認めて受け入れることなのだと、背中を押されたような気がした。自分を知ることとは強くなるということなのかもしれないと思った。

私たちは何者なのだろう。その問いに対する答えはその都度変わってもいいのではないかと私は思う。その時その時にいろいろな自分があるのだから。望んでいる自分にはなかなかないかもしれない。同じ過ちを繰り返したり、時には他人を妬み羨むこともあるだろう。偽りの自分はいつかは崩れる。彼らのように格好悪くても、無様でも、泥臭くても、自分の信じることを続けて自分が自分らしくあること。それが私の「何者」であると思っている。

私も将来、就職という壁を乗り越えなければならない時が来るだろう。人生において就活とは一つの通過点に過ぎないのかもしれない。高校生の私にはまだそこを通るための苦悩や葛藤は想像もつかないことだ。もしこの作品に出会わなければ、私は諦めて逃げ出してしまうかもしれない。過去の拓人のように「観察者」であり続けてしまっていたかもしれない。でも今の私ならきっと大丈夫だ。カッコ悪く、無様にあがき続けよう。

優秀賞

「西の魔女が死んだ」を読んで

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著 新潮文庫

商船学科2年 田中 智也

「わりい、おれ死んだ」

この言葉は集英社の漫画「ONE PIECE」の十一巻にある。私は、死んだという言葉を見たり聞いたりすると、いつもこの漫画のシーンを思い出す。主人公ルフィは海賊王ロジャーが処刑された処刑台に登ってしまう。処刑台からの風景を堪能しているルフィの隙を見て、復讐にやってきたバギーたちに死刑台の木柵にはりつけられ、公開処刑をはじめようとされる。ルフィは仲間が駆けつけたことを確認すると、ひとりひとりの名前を呼んで、笑顔でこのセリフを言った。なぜ笑ったのか、処刑されようとする直前に。自分の人生がここまでだと悟った瞬間に笑うことができるのか。ルフィは死を受け入れ、覚悟して笑ったのだ。いつも死を覚悟しながら生きる海賊は、好きなことをして、悔いがない人生を送った証として最後に笑うことができたのだ。

死とはなんだろう。まだ先の事、自分自身の事とは感じられない。漫画の中では死は大きなクライマックスとして描かれる。ゲームのなかでは死ねば先には進めない。西の魔女が死んだという物語のなかでも、主人公が死について考え、まわりの人に死とは何なのか問いかけるシーンがある。主人公の父は、死んだらもう最後の最後なんだ、もう何もわからなくなって自分というものがなくなってしまうと言った。主人公は胸が詰まり、涙声になりながらも祖母に父の言葉を伝える。祖母は主人公の背中をなでながら、自分の死に対する考えを話す。死ぬ、ということはずっと身体に縛られていた魂が、身体から離れて自由になることだ、きっとどんなにか楽になれてうれしいんじゃないかしらと、主人公に話す。主人公は長年心にあって苦しんできた重石がようやく取り除かれて、別のドアが開かれたような、明るい気分になったのだった。

誰にでも、いつか必ずやってくる死。それは恐れおののくものではなく、私たちがこの世界に生まれ出てくる直前までいた場所にかえるというだけの話。私たちの身体から魂が完全に離れてしまうこと、つまり肉体の死なのだ。魂は永遠に生き続け、死で全てが無になってしまうことはないのだ。魂は身体を持つことによってしか物事を体験できないし、体験によってしか、魂は成長できない。だから、この世に生を受けるっているのは魂にとっては願ってもないビックチャンスというわけだ。春になったら種から芽がでるように、それが光に向かって伸びていくように、魂は成長したがつている。

死が終わりではないことを、私はこの物語を読んで妙に納得した。人が生まれて死んでいくまでの時間は、魂を磨くための時間なのだ。魂は成長したがつている。何もかもが面倒くさく、投げ出したくなっても、魂は成長したがつているのだ。投げ出さずに少しでも進もう。何かできることはないかと考え踏み出すことで魂は喜ぶ。磨かれる。そういう一步一步が悔いのない人生を作り出していくのではないか。すべてを投げ出したいとか思う精神力の弱い人間を乗っ取ろうと、いつでも目を光らせているやつがいる。それは自分の心になかにもあり、他人とかかわることで言葉巧みに成長を妨げようとしてくる。主人公の祖母は言う。悪魔のささやきを防ぐために、一番大切なのは、意志の力。自分で決める力、自分で決めたことをやり遂げるのですと。

私は将来、船乗りになる。日本は資源の乏しい国だ。外航船に乗って、日本の産業の根幹を支える資源を日本に運ぶ。日本の素晴らしい加工品を世界に運ぶ。そう決めている。意志の強い人は凜としていて、しなやかで笑顔が多い。困難と思うようなことがあっても、意志の力で乗り越え、魂を磨く。人間力にあふれ、仲間から信頼され、苦境に落とされようとも必ず助けがくるのだ。ルフィが雷に助けられたように。おれは海賊王になると死刑台の上で叫んだのも意志の力だ。意志の力、精神を鍛えていくにはどうしたらいいのか、この本の中で主人公は祖母に聞いている。祖母はこう答えている。まず、早寝早起き、食事をしっかりととり、よく運動し、規則正しい生活をする。今は意志の力が弱くても、少しずつ強くなれる。最初は何も変わらないように思うかもしれない、だんだんに疑いの心や、怠け心、あきらめ、投げやりな気持ちも出てくる。それに打ち勝って、ただ黙々と決めたことを続ける。そしてようやく、以前の自分とは違う自分を発見するような出来事が起こると、祖母はまるで魔女のようにやさしく主人公に伝えるのだ。

死がおとずれるまで意志の力を鍛え、最後笑っていきたい。悔いがない人生を送った証として最後に笑いたかった。

佳作

魔法を使わない魔女

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著 新潮文庫

情報工学科3年 野原 朱莉

『西の魔女が死んだ』あまりにもインパクトの大きすぎるタイトルに衝撃をうけた。だが繊細なタッチで表紙は描かれており、梨の果実の中に一軒の家と大きな帽子をかぶった少女がぼつり…。その少女はどことなく寂しげな表情をしているようにも見える。タイトルと、それに相応しくない寂寥な表紙。二つの絶妙なコントラストにとっても惹かれ私はこの本を手にとった。

これは心に傷を負った少女が田舎に暮らす英国人の祖母との生活の中で次第に癒され、成長していく姿を綴った本である。主人公まいは、外国人のクォーターであることから何かとクラスの中で浮いてしまっていた。そんなこともあり、人間付き合いに嫌気が差し登校拒否となってしまうのだ。そこでしばらくの間、自然の中で田舎に住む祖母と二人三脚で生活することになる。「西の魔女。」実はこれはまいの祖母のことなのである。魔女と聞くと鼻がぐにゃっと曲がっていたり、ほうきに乗って空を飛んだり、呪文を唱えて自由自在に物を動かしたりと非現実的な世界で生きるおばあさんだと想像するだろう。だがこの本の魔女はそのような怪しい者ではなく、ジャムを作ったり、鶏を育てたりする優しい魔女なのだ。自分も魔女になりたいと思ったまいは祖母に教えてもらいながら魔女修行を始める。この魔女修行とは魔法を使う修行ではなく、早寝早起きをはじめとする規則正しい生活をするということと何事も自分で決めるということだった。とてもシンプルで魔女修行という名のわりには地味で素朴に感じる。しかしこれはまい自身が強さ、やさしさ、希望といった生きる楽しさを再発見していくための実に奥の深い難しい修行であったのだ。

「シロクマがハワイより北極で生きる方を選んだからといって、だれがシロクマを責めますか。」

これはいじめられたことを打ち明けたまいに祖母が話した一言。環境を変えること。逃げること。この二つは似ているがイコールで等しく繋ぐことはできない。シロクマはハワイから逃げるのではなく、北極で生きる方を選んだにすぎないからだ。まいも今の自分から逃げるのではなく、新たな場所で新しい人生を始めればいい。そう祖母は伝えているのではないだろうか。まいを優しく、温かく包み込み、勇気さえも与える言葉。祖母に会ってみたい。話してみたい。そう感じるほど私の心に突き刺さった。当初は課題から逃げようとする消極的な姿勢がみられていたまいだったが、魔女の修行や祖母の言葉もあり課題に立ち向かい自分自身で解決しようと努める様子が見られるほど成長したのだ。

私は勉強があまり好きではない。正直言うと嫌いである。解けない問題があるとすぐ諦めてお部屋の掃除をしたり、スマホを触ったりと怠けてしまう。この場合の私はただ逃げているだけにすぎない。まいと祖母の考え方にとっても感化されすぐ諦め、逃げ、解決しようとするしない普通の自分に恥ずかしいとすら感じた。少しずつ二人に近づけるよう、難しいことも挑戦していきたい。

「死。」この本の中で最も大きなカギを握るワードだ。人は死んだらどうなるだろう？誰しも一度は考えたことがあるのではないだろうか。祖母はこの質問に、死んだら身体はなくなるが、魂は長い旅を続けると答えた。死んだら自分というものが無くなると言った父の考えとは正反対。死が終わりだと考えてしまうと人生も虚しいものになってしまう。だが、魂は旅を続けると考えると生きる時間を大切にしていこうと思える。祖母は魂が抜けだした証拠にまいとの思い出がある場所にメッセージを残していた。このメッセージを発見できたのはまいが魔女修行を続けていたからであり、魔女の遺伝子はしっかりまいに受け継がれているようだ。

以前私も祖母方の愛犬が亡くなった際、曾祖母の暮らす部屋のカメラに愛犬と思われる姿が映っていたことがある。とても奇妙な体験で信じ難いが、愛犬は曾祖母にとってもよく懐いていたので確かにあれは愛犬だったのだと思う。だからこそまいの祖母の考えに賛同した。死んだ後自分がどうなるか分からないし、知ることもしない。だが魂が生き続けると思うことで、残された人の寂しさを半減してくれたり、周りの方に対してこれから先旅を共にする仲間だと思えば優しい気持ちで接されたりするのではないだろうか。西の魔女は死んでいない。今もなおまいの心の中で生き続けているのだ。

この本は初めに祖母が既に亡くなっていることが書かれている。だからこそ二人のやわらかく、きらきらとした日常がもう二度と戻ってこないと思うと悲しい気持ちでいっぱいになった。だからこそパタン、と本を閉じた後になんだか心がぽかぽかしているように感じたのだろう。祖母のようなまっすぐで、温かい心の持ち主に私もなりたかった。

佳作

挑戦、そして努力

『NASA より宇宙に近い町工場』 植松 努 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン

電子機械工学科 2 年 佐上 眞也

僕には、すごく仲のいい親友がいる。その親友は宇宙のことが大好きな人で、宇宙について語れば、だれにも止められなかった。そんな親友のそばにいたので、自然と僕も宇宙に対して興味を持っていた。嫌なことがあったときは、いつも星を見ているようにしている。今は思春期という時期もあって、いろいろな人間関係に悩まされている。思春期真只中の僕の中の心情はどんどん変わっていくのに、星の輝きはいつまでたっても変わらない。そう思いながら。

そんな日々を過ごしている自分に、課題図書で読書感想文を書かないといけなくなった。僕が選んだ本は、「NASA より宇宙に近い町工場」という本だ。選んだ理由はもちろん、宇宙に興味があるからである。そしてこのタイトルの NASA と町工場のどこに関係性があるかも、この本を読みたいと思ったきっかけになった。

この本の主人公は、著者でもある植松 努であり、植松電機というパワーショベルに使われるマグネットを作成する会社を経営している。しかし宇宙と関係ないはずなのに、ロケットを開発するなどの宇宙開発を行っている。そんな彼の過去の経験とその経験を生かしながら様々な事業に取り組んでいく物語である。

僕が印象に残った言葉は、「楽をすると「無能」にしかねません。なぜなら楽をするということは、他の人がする経験を避けて通るということだからです。能力というものは、経験しなければ身につかないからです。」

というのだ。「鴨の水かき」という言葉があるように、どんなすばらしい能力を持っている人でも苦勞をしているからこそ、その人の能力として成り立っているのではないかとこの言葉を読んで感じた。たくさんの経験、努力が大切だということだ。僕はよく人を羨む癖があった。「あの人は、英語がペラペラだからうらやましい。」「あの人は、学校では寝ているのに点数が僕より高くていいな。」と。しかし、今になって考えてみると、その人たちは塾に行ったり、英会話スクールに行ったりと、みんなが見てないところで経験し、努力をたくさんしていた。だからこそ、その努力が能力になっていたんだなと思った。この本を読まなかったら、いつまでも羨ましがっていたと考えると、とても恐ろしい。

二つ目は、一つ目の続きになるが、「努力というものは我慢ではありません。いやいやすることでもありません。憧れた結果、してしまうものです。憧れがなければ努力はできないんです。」

つまりは、その才能＝努力＝好きなことという等式が成り立つ。好きなことをするときは、好きという感情に隠れて自然と努力をしてしまう。その努力があるからこそ、才能に変化すると感じた。

僕は、高校に入ってからベースギターを始めた。もしこのまま続けていたら、いずれ僕の才能になるということだ。今からとても楽しみだ。

三つめは、連鎖というものは、鎖という字が入っているので切れにくいように見えますが、実は簡単に切ることができます。「いやなことは自分のところで食い止めるぞ」という鋼のハートを持った瞬間に、ブツッと鎖が切れるのです。というところだ。この文章を読んで僕も納得した。この世には、変な文化や風習などが残っている。その文化や風習は、昔から続いているからこそ、それがいくら間違っているとしても普通の人は、それに従おうとして負の連鎖が続いていく。しかし、誰か一人でもその連鎖を止めようとしたとき、すぐにそれが間違っているのにみんなも気づく。そうすることで、負の連鎖があっさり止められるのではないかと考えた。

この本を読んで、人類がここまで成長できたのも、先人たちが当時の価値観や風習、文化などに批判されながらも努力をして、いろいろなものを開発したからである。僕もそんな未来の発展に貢献できるような、先を行く技術者になりたい。

佳作

人生と天然な色

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著 新潮文庫

情報工学科2年 牧平 大和

私たちは様々な感覚を持って人生を過ごしている。いわゆる、五感というもの。

この本は、中学生の少女「まい」が、「西の魔女」と呼ぶおばあちゃんの死を告げられ、二人で過ごした一か月余りの暮らしを思い出しながらおばあちゃんからの愛情を感じる物語だ。まいは様々な自然と触れ合いおばあちゃんからの知恵や教訓を受け、苦しい現実が待ち受けるとその教えを頼り、乗り越えながら魔女の試練として精神を成長させる、そんな思い出を過ごした。

この「西の魔女が死んだ」を読み強く感じたことは、感覚を失うことは何よりも恐怖だが、味覚でも嗅覚でも聴覚でも触覚でもなく、

視覚を失うことこそが一番の恐怖なのではないかということだ。すなわち、色を失うということ。

私たちが見ているのは、多様な色の連なった変化であり、そこから事物を認識している。この多様な色が失われた時、ありふれた日常をもう二度と見ることが出来ないと、全てに絶望するだろう。

例えば、アニメだとどうだろう。アニメは奥行きのない二次元の世界であるが、現実世界と同様全て色の連鎖で完成している。この事物と変わって、画面全体が黒一色の三十分間、声と効果音だけが聞こえる作品だとするととても見てられない。それ程、見える景色というのは大事なのだろう。

まず、この本の冒頭はタイトルと同じ「西の魔女が死んだ。」から始まる。しかし、主人公のまいは授業の途中に、母が迎えに来ると連絡を受けてワクワクしていた。その後、母から魔女が倒れたと聞き初めて動揺した。このことから、当時のまいの身に起きた出来事を未来のまいが過去として時系列的に話している作品だと分かる。これは、魔女が死んだことを知った当時おばあちゃんとの日々を思い出していたように、次はこれまでのまいの日々を思い返していたのではないだろうか。

まいがワクワクしていた頃、「ダークグリーン」や「黒よりもソフト」、「青ざめた」など、色の描写が多くあった。しかしどうだろう。おばあちゃんが倒れた事実を知った時、やはり「まいの回りの世界から音と色が消えた。」と、音と色は徐々に回復したが、まいは今まで見た元の世界を見ることはなくなってしまった。「耳の奥でジンジンと血液の流れる音がした」という矛盾点があるのだが、それは音が消えた直前のまいの気のせいであることをきちんと表す「ように思った。」という言葉が付けられており、まいの動揺と逃れられない事実を読者である私に突きつけられた気がして切なくなった。

有名人気歌手、大滝詠一さんの名曲「君は天然色」を作詞した松本隆さんは、この曲の作詞についてこう語っていた。妹が亡くなった時、好きだった街並みを歩いていると目の前の光景が白黒に見えた、と。大切な人ともう二度と会えない哀しみとその衝撃は、綺麗に目に焼き付き映っているはずの景色さえも色を亡くして変えてしまった。「思い出はモノクローム 色を点けてくれ」君は天然色のこの歌詞は、その哀しみと景色を塗り替えて欲しいと謳ったのだろう。この本を読みながら私はこの曲を思い浮かべ、無意識にまいと重ねていた。大切な何かを失った時の哀しみの色は白黒なのだろうか。私はそう感じた。

ある日、おばあちゃんの庭の鶏たちが小屋の中で獣に襲われたのか、鶏が血を流して死んで転がっている悲惨な光景をまいは見失い、ショックの余りしばらく立ち直れないでいた。そんな時、気を慰めようと、回りが木々に囲まれた、切り株や綺麗な植物、陽の光がよく差すまいの最も好きな場所に行ったが、様子がいつもと少し違っていた。暗い空、白い裏葉、羽ばたく鳥、そんな光景でまいは逃げ出した。まいを襲ったそれらは白黒の象徴であるものだ。そこで私は哀しみの色が白黒である一時の景色なのではないと気付いた。自身におろかかった哀しい事実は感覚を狂わせ、色を付ける余裕さえも無くしてしまうのだろう。

私はまいと自分を重ねた。まいは家や故郷が恋しくなる、ホームシックによくかかっていたが私も同じ経験がある。それは心の弱さからだろう。特別なことではなく、日常から心を鍛えることをおばあちゃんはまいに教えた。人生にはありきたりも苦しみも変わり目もある。しかし、何があっても日常は変わらず、常にそこから自分を強くできると私はこの本から、魔女から学んだ。人は概念を色とする時がある。好きという感情、楽しさ、あの人の雰囲気、そういった色を伺いながら私たちは生きている。まいの理想は鮮やかであり過ぎていたのだろう。人は、魂は自然本来の色でいいのだと私はこの本を通じて感じた。何もかもを失ってできるモノクロではなく、天然な色の私でありたいとそう感じた。

佳作

魔女の条件

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著 新潮文庫

商船学科1年 青木 愛莉

この本のタイトルを見たとき、ファンタジー小説か何かかと思ったのだが、実際にはとても現実的な内容で、主人公のまいと私が重なる部分が多くあったこともあり、すぐに物語に引き込まれていった。そして本を読み終えたとき、この本が、思春期の私たちに向けて書かれた本ではないかと思うほど、メッセージ性の強いものだと感じた。

中学校に入学して一か月。学校で孤立してしまった主人公のまいは不登校になり、母親の提案で、田舎のおばあちゃんと一月余り一緒に暮らすことになる。そこでまいは、おばあちゃんから、おばあちゃんのおばあちゃんが魔女だったことを知らされ、魔女になるための特訓を受けることになる。タイトルにも書かれている魔女という二文字。現実的な内容の物語の中に突然表れるこの言葉に、私は違和感を覚えた。魔女とはいったい何なのだろうか。

おばあちゃんは魔女について「実際には箒に乗ったりすることはほとんどなかった」「おばあちゃんの祖母は予知能力、透視能力があった」とまいに説明している。たしかにこの文章だけを読むと、私たちが抱く魔女のイメージに近いかもしれない。しかし、まいが魔女になるために課した、おばあちゃんの特訓内容は「早寝早起き、食事をしっかり摂り、よく運動し、規則正しい生活をする事」だった。意志の力、自分で決める力、自分で決めたことをやり遂げる力が、魔女になるために一番大切なことらしい。

私は、予知能力や透視能力が、規則正しい生活を送ることにより身につくとはとても思えなかった。

他にも、おばあちゃんは「自分で見ようとしたり、聞こうとする意志の力が大事」とか「魔女は自分の直感を大事にしなければならない」等、魔女になるために必要な能力をまいに伝えているが、どれも魔女に必要な能力としては平凡な気がした。

疑問を持ったまま本を読み進めていくうちに、おばあちゃんのいう魔女とは、私たちが想像している魔女の姿ではなく、世の中を強く生きていく女性の姿を表しているのではないかと思うようになった。きっとおばあちゃんは、まいがこれから生きていくために必要なことを、魔女という存在を作り上げることによって伝えたかったのではないだろうか。なぜなら、おばあちゃんがまいに「魔女の心得講座」をする前後には、必ずまいの考え方が間違った方向へ向かっている場面が書かれているからだ。

おばあちゃんが「自分で見ようとしたり、聞こうとする意志が大事であり、自分で見ようとしないうのに何かが見えたり聞こえたりするのはとても危険で不快なこと。」という話をまいにする前には、おばあちゃんの家近くに住むゲンジさんに対して、まいが嫌悪感を抱いている様子が書かれている。また「魔女は自分の直感を大事にしなければならないが、直感に取りつかれてはならない。そうすると、それは激しい思い込み、妄想となってその人自身を支配してしまう。」とまいに話をした後には、おばあちゃんの鶏が獣に襲われたときに金網に残っていた毛の塊を、ゲンジさんの飼っている犬の毛だと決めつけるまいの様子が書かれている。

こうしたことから、おばあちゃんはまいに、うわさ話や陰口等、真実かどうかはわからないことを信じ込むと相手を傷つけてしまうため、しっかり自分の目で見て聞いて判断することが大切だということを伝えたかったのではないだろうか。また、第一印象だけで物事を決めるのではなく、事実や根拠を持って判断しなければ失敗するということを伝えたかったのではないだろうか。

本を読み終えて、私は自分自身を客観視してみた。規則正しい生活を送れているだろうか。うわさ話に惑わされていないだろうか。第一印象だけで物事を判断していないだろうか。

授業や部活動がある日は、確かに規則正しい生活を送れている。しかし、それは自分の意志ではなく、仕方なくそうしていることに気が付いた。何もない休日には、夜更かしをし、遅く起きる生活をしている自分がいる。

人のうわさはあまり信じないよう気を付けてはいるが、第一印象で嫌悪感を抱いてしまうと、その気持ちを変えずに心を閉ざしてしまっている気がする。

私には魔女修業が足りないようだ。私が厳しい世の中を強く生きていくためには、まだまだたくさんの魔女修業を積み重ねなければならない。どのような修業をするかは、本の中や、先生や親、友人からの言葉等、いろいろな場所に隠されている。

これからの人生、きっといくつもの壁にぶつかるだろう。一人前の魔女になり世の中を強く生きていくために、私はこれから、多くの魔女修業を積んでいく。

第 1 回読書ラリー優秀者発表

図書館の利用促進のため，令和 3 年 1 2 月 6 日（月）～令和 4 年 1 月 1 1 日（火）の期間で，第 1 回読書ラリーを開催しました。

実施期間は短かったものの，多くの本科生・専攻科生に参加いただき，上位 3 名を最優秀賞，4～10 位を優秀者として表彰し，賞状及び副賞を贈呈しました。

最優秀賞

電子・情報システム工学専攻 2 年	堀本 大希
情報工学科 2 年	吉野 桜花
商船学科 1 年	森松 豊

優秀賞

電子・情報システム工学専攻 2 年	藤 匠海
商船学科 3 年	中尾 歩拓
電子機械工学科 2 年	山崎 樟太
商船学科 3 年	原口 恭一
電子機械工学科 5 年	大庭 亜未
電子機械工学科 5 年	美坂 祐樹
商船学科 1 年	本木 貴久

教員推薦図書

こころ

夏目 漱石 著
新潮文庫、他

一般科目 牛見 真博

中学1年の夏休みの読書感想文の宿題で、題名にも魅かれ、本屋で「おすすめの
本」として平積みしてあった文庫本「こころ」を手に取りました。

本を購入したその日の午後から、晩御飯も食わずに「こころ」の世界に没頭し、
主人公の先生（私）と、親友の K が、同じ下宿先のお嬢さんへの想いをめぐってそ
れぞれ苦悩する過程、とくに「私」の「K」に対する卑怯な心の動きは、読み進め
るうちにまるで自分の中にある心の醜さとも重なるような錯覚を覚えました。

真夜中までで一気に読み終え、思いがけない結末と、文字通り人の「こころ」と、
その複雑な動きを、「言葉だけでここまでリアルに表現できるのか」と、それまで
感じたことのない高揚感を覚えました。漠然と電車の運転士になりたいと思っていた
私は、この読書体験をきっかけに文学の世界をもっと知りたいと思うようになりました。

昨今、文学など役に立たないという風潮もありますが、多くの人に読み継がれて
きた文学作品は、いつの時代も私達に本を読む楽しさや表現の妙味、また決してき
れい事だけではない心の内面、ひいては人間の存在について考えさせてくれる何物
にも代え難い存在です。ぜひ一読をお勧めします。



図書館閲覧室



学科推薦図書コーナー

教員推薦図書

エネルギー問題入門: カリフォルニア大学バークレー校特別講義

リチャード・A. ムラー 著 二階堂 行彦 訳

楽工社

電子機械工学科 笹岡 秀紀

本の紹介文を書かねばならぬとなって、図書館で見つけた本書を読んでいると、不意に、物理を学んでいた大学時代、恩師に言われたことを思い出した。「大気に CO₂ が増えてきて地球の気温が上がったら、その分 (炭酸カルシウムでできてる) サンゴや木の成長が速くなって CO₂ をたくさん使うようになるから CO₂ の濃度はそうそう上がらない。だから気温も大して上がらないっちゃ。」

一応書いておくが、この恩師は、原子力工学を修めたのち、海外に渡ってサイエンスやネイチャーといった科学雑誌に何度も単独執筆の論文を掲載させてきた一流の実験系研究者である。ただ、研究は「オリジナリティと速度が全て」と言い切り、自説の検証にはあまり重きを置かず、新しい説を次々と発表することを好むところがあった。人生は限られているのだから検証は得意な人がやればいいということであった。大学院に進んだ頃には、純朴だった私にも恩師に反発する心も芽生え、やがて自分はそんな世界でやっていくのは無理だなと感じて工学の道に進んだ。その決断に後悔はないが、既に残り時間を気にせねばならぬ年齢となってもなかなか成果を上げられていない我が身を振り返ると、恩師の言うことも一面、真理ではあったな感じる今日この頃である。

さて、そんな私をセンチメンタルな気分にした本書なのだが、ビックデータ解析の大家にして UCLA 教授である著者が、若い読者を大統領に見立てて、エネルギー問題の現状と予想される未来、および具体的に今どのような政策をとるべきかを政治問題も絡めてわかりやすく説明してくれている。初版が 7 年前とやや古いが、この手の本にありがちな国際情勢の変化による内容の陳腐化もほとんどない。むしろ、今の世界情勢の流れはこれで大丈夫なの？と考えさせられる内容に溢れている。絵やグラフも多く、文章も平易で、電力会社やエネルギー関係の企業を志望する若者が、就活対策のための常識を詰め込むにも打ってつけである。

個人的には、序章で、地球温暖化が進行しているか否かを判断するデータ解析を著者がどれほど綿密に、慎重に行ったのかを述べている部分に特に勧めである。地球環境というのは、様々な要因で容易に変化するが、CO₂ 以外の要因による変化を一つ一つ丁寧に除外して得られた平均気温の変化と、地球の平均 CO₂ 濃度の変化が、地球科学の分野では SSR な程ピッタリと一致するらしい。流石である。できることなら今は亡き恩師にも読んでもらい、これについて議論をしてみたかったなと感じた一冊である。

ブックハンティングに参加して

初めてのブックハンティングは、とても楽しかったというのと、本を選ぶのは大変だなと感じました。自分が読みたいと思う本を選ぶのは簡単だけど、他人も読みたいと思えるような本を選ぶのは、とても難しかったです。今回多くのジャンルの本を見ることができたのは、とても良かったです。なので今後は、今までに手に取ったことのなかったようなジャンルの本も読んでみたいと思います。また、機会があれば、今度は広島に行ってブックハンティングをしたいです。

商船学科 1 年 佐々木 翔多

僕は初めてのブックハンティングだったのですが、残念なことにコロナの影響で Web 開催となりました。やはり、現物を見ないと分からないことや、面倒くさい事が多かったと思います。五千円程度だとライトノベルはまあまあ買えますが、参考書や小説などはそう多くは買えないので、本を選ぶのが大変でした。今回は図書室にあるライトノベルの続きと、3D や VR 技術関係の本と、自分が周りの人に読んでほしい本を選びました。次回は Web 開催ではないように願いたいと思います。

情報工学科 1 年 村田 朔治

今回は Web での実施となりましたが、インターネットを利用することで、選書したい本のあらすじなどを調べながら探すことができた、その場で図書館にあるか、ないかを調べることができたので、その点は良かったと思います。しかし、実際に手に取って読んでみたり、似ている本と比べたりということができなかったのも、また機会があれば、今度は書店でのブックハンティングにも参加してみたいなと思いました。とても貴重な体験ができて、良かったです。

電子機械工学科 1 年 桑田 楓

ブックハンティングは私にとって今回が初めてでした。本が好きで図書委員になったので、自分で本を探せるというのはとてもうれしかったです。しかし今回はコロナウィルスの影響もあり、インターネットでのハンティングになりました。これはこれで目的の本が探しやすいといったメリットもあるのですが、やはり本は実物を見てどんな本なのか、ページ数はどのくらいなのか、といったいろいろな情報をもとに自分の求める本を探すべきだと感じました。

電子機械工学科 2 年 佐々木 成道

僕は自分で持っているスマホで調べたのですが、まず”ISBN コード”と価格が分からず、OPAC では無理だと思い、他で調べました。ISBN コードはすぐに分かり、価格も少し調べ続けて分かったので、いい勉強にもなりました。

情報工学科 2 年 ト部 優矢

惜しくも、今回のブックハンティングは書店で行うことができませんでした。私は 2 回目の参加となりますが、書店に行ったときは実際に手に取って試し読みしたり、類似した本を読み比べたりしたことがあります。Web ではそのようなことができなかったのもあまり本を選ぶ実感はありませんでした。ただ、そのような状況下でもおすすめの本を整理することができ、ハンティングできたため良かったです。感染症が少しでも収まり、次回は書店でブックハンティングができたらなって思います。

商船学科 3 年 中野 大輔

今回のブックハンティングでは広島の本屋に行くことができず残念でしたが、Web で本を見つけるといってもより多くの本と出会えたので良い体験になりました。最初は OPAC の使い方をよく理解していなかったのも少しばかり戸惑いましたが、結果的に目的の本を選ぶことができたので良かったです。Web 上ではあまりに多くの本が検索結果として出てくるので選ぶのにとても迷いましたがそれもまた良かったです。次回のブックハンティングにもぜひ参加したいです。

電子機械工学科 3 年 大道 敬久

今回新型コロナウイルスの影響でブックハンティングがウェブで行われたことについて少し、残念に思いました。自分は一年生からずっと図書委員会で、一年生のときしかブックハンティングに行けてなかったのも、今回をすごく楽しみにしていました。広島のとてつ広い図書館でたくさんの本とふれあい、面白そうな本を選ぶのは意外と楽しくまた経験したいと思っていたので残念です。

電子機械工学科 4 年 久保 主瑛

今年のブックハンティングは史上初のオンライン開催となった。実際に本を手にとって選ぶことができず内容が確認できないため、専門書を購入するハードルが高く感じた。しかし、OPAC や Webcat Plus などインターネットサービスを活用して本を探す良いきっかけになったと思う。近年では電子媒体 VS 紙媒体の構図で語られることが多いが、互いに足りない情報を補い合って使うことが賢い使い方だと思った。

情報工学科 4 年 上野 大輔

今回のブックハンティングはコロナ禍のためオンライン開催となった。実際に手にとって見ることはできなかったが、インターネットでの書籍検索の手順を学ぶことができ、有意義であったと感じます。

情報工学科 5 年 的場 遥佳

今回は初めてのWebでのブックハンティング。まずは、やってみて中々難しかった。いつもは三冊か候補を上げとけば足りない分は、表紙やポップ、帯なんかを見て買っていたけれど、今回はWeb、表紙はあれどポップ無しインターネットの海の中、目星がないと探しもできない。結局リクエストのダンスダンスダンスと困った時のナンバリングで空想科学読本をチョイス。後期はもっと考えて面白い本を入れたいと思う。次こそは書店に行きたい。

商船学科5年 武内 祐樹

中学校のときの図書室といえば、歴史漫画と、小説と、図鑑と……。少年的な好奇心をあおってくれる本は当時でも古い本が1・2冊ほどあったくらいでした。本校に入学して、図書館に入った時の驚きは忘れられず、私の高専での生活を充実したものにしてくれました。そのため、この図書館の図書委員として自分の“推し”のジャンルの本を選び、のちに入学してくれるコンピューター、プログラム、回路好きたちのそそる本を選び、残せることはとても楽しく、光栄なことでした。本来の形とは異なってしまいましたが、こういった形でもブックハンティングを開催していただいた関係者の方々に感謝を申し上げます。

電子機械工学科5年 湊 由鳥



ブックハンティングコーナー

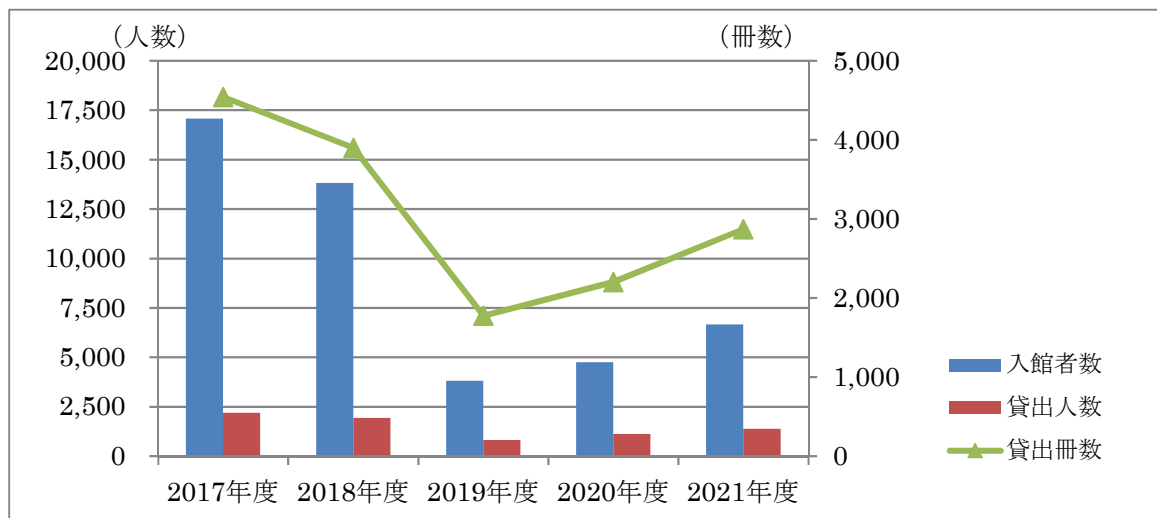


DVD ブックハンティング

図書館利用状況

令和4年1月31日現在

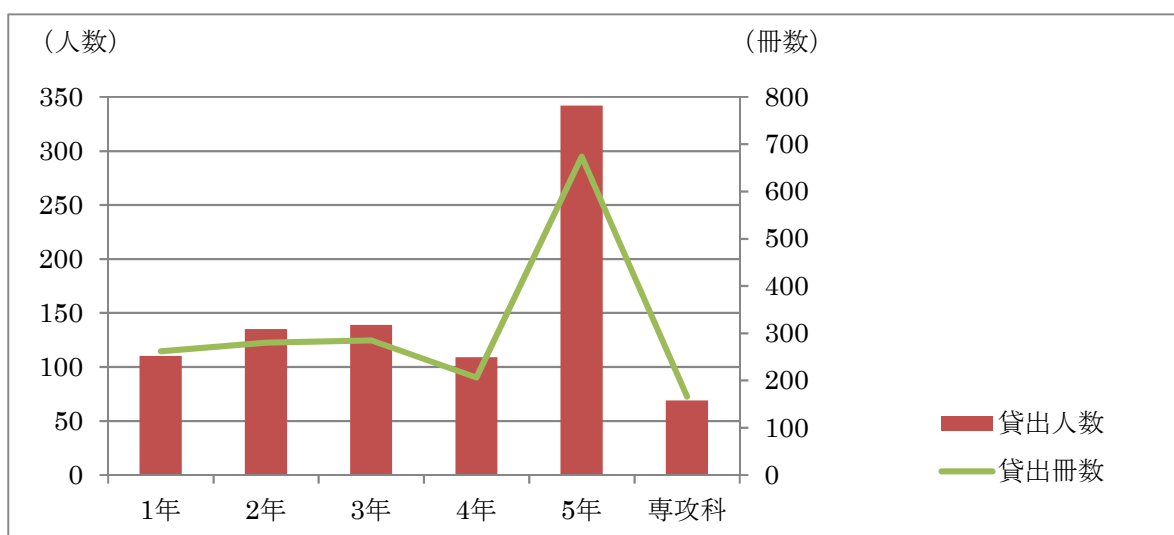
年度別入館者数・貸出人数・貸出冊数



	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
入館者数	17,077	13,814	3,805	4,740	6,651
貸出人数	2,182	1,928	818	1,115	1,383
貸出冊数	4,542	3,900	1,777	2,202	2,870

2019年度は図書館改修工事のため6月から臨時図書室を開設、2020年度は新型コロナウイルス感染対策のため閉寮・時間外閉館のため入館者・貸出実績ともに減少

2021 年度学年別利用状況



	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	専攻科
貸出人数	110	135	139	109	342	69
貸出冊数	262	280	285	206	674	166